



第十六回市民文芸祭奨励賞を頂き、身に余る光栄と感激で一杯です。私と詩との出会い以来中央公民館での詩の教室でして、開講されては九年の歳月が経ちました。そのときの恩師先生は今も、急逝なさいましたが、深まる秋の中にわびしさと虚しさにかきまわられている最中の受賞で、故先生もきっと祝福してくださること胸を膨らまして。

夜ふけ誰かの手で
顔を押しえられたような錯覚で
眼がさめた
くらがりや頬を撫でたら
何か軽いものがハラリと落ちた
急いで灯をつけたら
それは眼を射るような鮮やかな
チューリップの脱ぎすてた
緋色のナイトガウン――

昨日までは
日毎上昇する天気の中で

詩

花の命

落合のぶ(本町四)

それは現代的でもあり、保存力を持
たせる意味からも必要なのことであ
うとも思う。しかし、本物からほど
遠い味にしてはくさいと思うので
ある。
世の中、流通機構が発達すればす
るほど、奇妙な出会いもある。新潟
県境にある、福島県只見町に旅した
とき、有名な山菜工場をのぞく機会
があった。
その地区の現金収入の六十%が、
春のぜんまい採りによるものだとい
う程に山菜の宝庫でもある。地区の
名前を頭に付けたさまざまなピン詰
めの山菜加工品が、主婦たちの手で
手際よく処理されていた。それはど
こでもあるローカルな工場風景であ
ったが、加工場の隅に無造作に積ん
であつたダンボール箱に目をやって
「ドキッ」とさせられた。
なんと、そこには中国語が印刷さ
れてあつたのである。(以下、略)



このたびは、思いがけない賞をいただき
ありがとうございます。
市民文芸講座に参加して八年余り、先生
のご指導のもとで、お友達と楽しく勉強し
てまいりました。難産の末に生まれた作品
は、とても可愛いものです。
これからも、楽しみながら川柳を続けて
いきたいと思っています。

テレカード愛のシグナル聞いてます
定年後の暦は妻の風になる
爪切つてくれる夫あり閑病記
わが家にも上司のような妻が居て
自分史の最後手形が締めくくる



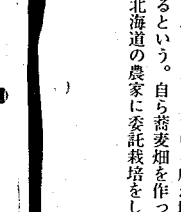
小学校六年のときに出会い、たちまち一目ぼ
れした宮沢賢治の「やまなし」。続編を書けな
いかと思ひ続け、自分なりの解釈でまとめた作
品が、まさか、こんな形で目の前にあると思
いませんでした。こうなつたら残りの月も書
いてみよう、受賞の知らせを受けた日、こん
なことを考えました。そんな私を天国にいる宮
沢さんはどう思っているのでしょうか。

「どうしたい。さつきからなにもし
ないで……」
「だって毎日、毎日、おなじような
けしきだもん。つまんないや!」
「遊びたくてもおとくらさんは、『流
れがいつもより速いからな。遠くへ
いってはいけませんよ』っていうんだ
もの。ここじつとしていられるほかに
なにもすることがないよ」
ここで「そうかそうか……。だが、
そんなことをいってもしかたがない。
これは毎年、今ごろになるとおこる
梅雨」というものだ。しかたのな
いことだ」
「でも……もうだいたつていっているよ。
これからもまだ続くのよ」
「まあな……。でもあとすこしのし
んぼうだ。もうすこしたてば、また、
いつものようになるよ」
「ほんと?」
「ああ、ほんとだとも……」
(以下、略)

お買物、ご用命は市内で

信頼のブランド 羽布団
TOKYO 西川チェーン
おとんの新保
本店 新津市本町2丁目10-27 ☎0250(22)0808
新発田店 新発田市舟入町1丁目17-14 ☎0254(23)6030

お住まいの水まわり
見直して見ませんか
浴室 キッチン トイレ ……
水まわり増改築専門店
シタシタショップ かねみや
本町2 ☎24-1630

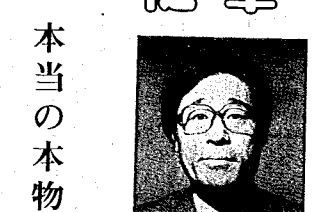


市民の総合的な文芸作品の発表の場として、毎年「文芸にいつ」が発刊
されています。昭和五十一年の第一号から数えて今年第十六号。号を
重ねることに投稿者の幅も広がり、深みのある秀作が多数寄せられるよう
になりました。これらの中から各部門の奨励賞作品を「紹介」します(受賞
者の敬称略)。

随筆

本当の本物

金子 泉(新金沢町)



ラジオの放送で日本蕎麦の特集番
組を聴いた。その番組でショウコを
受けたのは、蕎麦粉をはじめ薬味の
ネギまでもが、いわゆる外国からの
輸入品によるというのだ。ただ救
われたのは、醤油だけは確実に日本
国産だという部分であった。そして
ザル蕎麦一ぱいの八十%が輸入材料
で占められていると結んでいた。
今、日本では蕎麦粉のほとんどを
カナダから輸入しているというが蕎
麦屋さんの多い東北地方では、国産
の粉にこだわっている店が増えてい
るという。自ら蕎麦畑を作ったり、
北海道の農家に委託栽培をしたりし

食生活についておもうところを書いてみ
ましたが、今、暮らしの周辺をちょっと見
渡しただけで、「何だか変だ」と感じるこ
とが多くなっているように思えます。特別
な危機意識を持つというところはありま
せんが、多量でも少量でも不確実な「物たち」
の中に埋もれてしまつて、「本物」が見え
なくなつてしまつて、自らのアンテナを確
保したいものです。

小説

※この物語は、宮沢賢治著「やまなし」をもとにしたオリジナル作品です。

これは小さな谷川の底を写した、
別の青いげん燈です。

一、六月
梅雨のために谷川の水はふえ、水
も、空も、なにもかもがうす暗い幕
をはつたようなけしきです。そんな
川の底で、かにの子どもら
はぶくぶくとあわをはきなが
ら天じょうを見ていまし
た。そのあわも、ぎらぎら
光るなまりのようなあわで
した。
「つまんないな。どうし
て毎日うす暗いんだろ?」
弟のかにが、ふしぎそう
ににさんのかになさね
ました。
「それはきつと、だれかが
いたずらをしてるんだ」
「毎日うす暗くするんだ
だよ」
「だれが?」
「わかんない」
水かたのふえた川の流れ
は……まるであらしのおき
た海のようにゴボゴボとうねつてい
ます。うねっているだけです。川上
の方からは、かばの花も、あわも、
小さなこみも、なにも運んできませ
んでした。
「つまんないな」
弟のかにはボツリとい
うと、ぼこぼこことあわを
はきました。にいさんのか
にもなにもいわず、ぼこぼ
こことあわをはいいま
す。二ひきのはいたあわは
川の流れてそつてくるく
と回つて流れていきました
そのままだれくらの時
間がたつても、なんの変化
もありません。かにの子ど
もらは、あわをぼこぼこは
きながら、ずつと天じょう
を見つめているだけです。
「つまんないな」
おとくさんのかには――
穴の中でしばらく子どもら
ちのようすをじつと見つめ
ていました。……フツ、
と笑うと二ひきのそばにより、

お買物、ご用命は市内で

お買物、ご用命は市内で

新津支店開店20周年
ふれ愛バンク
ろうきん ローンも、預金も、ろうきんで。
☎23-0115